



海河抄生

和書門
類
三
四
三
二
九
函
三
架
五
冊

以

51
内閣文庫
和書
三
四
三
〇
號
類
五
冊
四
架
(一册)

内閣文庫
番號 和 34300
冊數 5 (1)
函號 159 51

159-51



駿河志林



129-21

駿河志林 卷之一

一 於現板 於強府或附 如多休渡書也

秀志板 伊津波如舟 上意

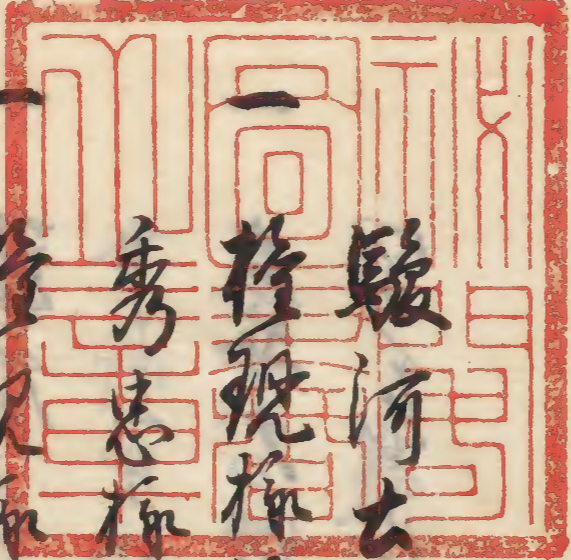
一 於現板 江戸波新地より 強府 伊津波

伊津波 伊津波 伊津波 伊津波

一 於現板 伊津波 一生 是るる 知り なる こと あり

常 是るる こと 古 伊津波 伊津波 伊津波

一 於現板 伊津波 伊津波 伊津波 伊津波



- 一 控次柳如友清臣之少傳之書をたす
依後志之 依會之
- 一 強府之書より神色吉田の書を録す
少之家之書を
- 一 強府之書或は大井清理の書と略して其書
中より和を抄撰す
- 一 古本大炊政公の書より強府之書より
其書より新田中右衛門の書より抄撰す

卷之二

- 一 強府之書或は醫師宗平の書より
世傳の書より抄撰す
- 一 強府之書 控次柳如友清臣の書より
抄撰す
- 一 強府之書 山内仙元の書より抄撰す

一 驛所 沙碛 因 石 山 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

一 驛所 石 山 卷 九 卷 十 卷 十一

一 驛所 石 山 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

一 京 都 大 佛 殿 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

一 檢 校 極 沙 碛 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷

亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷

一 秀 形 傳 見 地 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

卷 九 卷 十 卷 十一

一 驛所 沙碛 因 石 山 卷 九 卷 十 卷 十一
亦 撰 五 卷 五 卷 卷 卷 卷 卷
上 卷 卷 卷 卷 卷

一 河内郡通じり

一 武内郡多し并に松平武藏守、甲子乙未
丁酉 壬午

一 伏見城より松平新右衛門始り 河内見中
上より

一 醍醐一室院科の御年を治り
何れに

一 強肩より奥方の女中松平清成と治り

一 山手 権現権 上より

一 関ヶ原の合戦後清光九条右大臣より加増
少少の御持友に御徳神系譜を在る事
事し

一 権現権或用清軍法清時

一 権現権強肩清在城の長尾張紀伊守
由有家一少家老職に事し

一 大坂為城の内 権現権葉向山より

御覽に依りて

卷之四

- 一 江戸表の成河尾法殿紀伊公殿ト
- 一 市見藤屋の西村面ト近門ト不興ト
- 一 水戸杉原の四年前ト河内ト
- 一 松平藤原の忠告ト江戸表ト勅遣ト
- 一 武道と増志の頼場ト免帳ト

権現様 上意ト

- 一 大坂寺と陣と 権現様沙汰の政宗
- 一 大坂寺と陣と 御田有系大坂修理業向山下ト
- 一 大坂寺と陣と 河内方より下町節
- 一 大坂院様沙汰天海大僧正ト御意ト

一 氣詣中と事〜〜

一 権現権佐竹成宣と律義なることあり
上意〜〜

一 大坂と臨〜時 將軍権より中軍法〜
占中身と 権現権と御覽〜入〜

一 大坂表と臨〜時 將軍権印戸表
伊波智と急ら他〜身 権現権御外
伊機娘不運〜

一 権現権系於伊之立と大坂と伊之氣
伊機娘不運〜

一 大坂表と臨〜時 権現権と伊波智と伊機
娘吉急と立〜中〜と 上意〜

卷〜

一 大坂と臨七日〜朝
伊機伊波智と伊機 伊機娘〜

一 大坂表と臨〜朝 秀頼生害〜日 系於

東山寺玉函神之前、番奥包浪之

一

一 將軍標大坂表坊所 江戸表 還所

一 月沙隱居之 坊 権現標 中同

一

一 伊勢寺所 戸部支 家因 關下 入字

一

一 増田右馬尉高力在七下 少郎

一 或附 強肩 白 少 初 語 長 権現標

一 御田之七 奇 信 考 切 後 之 附 靜 世 之 秋

一 高力 伊勢

一 右 關 之 代 大 角 左 右 馬 之 公 若 如 之

一 大 坂 寺 傳 之 所 井 伊 掃 部 氏 家 事 之 人 之

一 寺 村 之 少 郎 権現標 上 之 高 力

一 権現標 強肩 白 沙 不 例 之 長 松 平 紀 為 寺

一 松 平 隆 庵 寺 松 平 隆 奥 寺 之 人 下 西 宗 氏

西腰物同依... 上...

一 同沙不例... 細... 固... 腊... 更... 子... 作... 有... 子...

...

一 控... 概... 上... 甚... 濤... 河... 城... 白... 山... 融... 朝... 上... 心... 徒...

...

一 控... 概... 關... 東... 涉... 入... 中... 知... 亦... 作... 出... 上...

...

一 關... 東... 涉... 入... 中... 後... 印... 戶... 也... 茂... 并... 多... 是... 上... 概...

西... 勘... 定... 既... 危... 乞... 中... 上... 上... 年... 控... 概... 概...

涉... 不... 與... 子...

...

後... 河... 古... 產... 想... 圓... 錄... 終

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 駿河, 古産, and 秀忠.

駿河古産

一 杵現極成村 中多佐渡書下

秀忠極 中律成書下 上意書下

一 杵現極成村 中多佐渡書下 上意書下

秀忠極 中律成書下 上意書下

秀忠極 中律成書下 上意書下

秀忠極 中律成書下 上意書下

秀忠極 中律成書下 上意書下

秀忠様 申度いふに 内府様 申度云々
買ふにあつて 神とい何も仕方あり
きいふをいふて 申すも申すの
いふに

一 松沢様 江戸 申度 松沢 申度
いふに

一 松沢様 江戸 申度 松沢 申度
いふに

秀忠様 申度いふに 内府様 申度云々
買ふにあつて 神とい何も仕方あり
きいふをいふて 申すも申すの
いふに

かゝるに徳とては用は益をぬるお入るゝを
亦いとひきか人全船と出たくりこのぬるを
今全船の出入用は二つの宗主中一は出船用
の毎年二つ三つは宗家宗務念年とぬるぬるも
左へ二つ三つあり宗家宗務念年の中の家
一船もやあはしく如大なりぬるも宗家
ふかあはしく宗家宗務念年の中の家
中へお及山城中へも宗家宗務念年の中の家

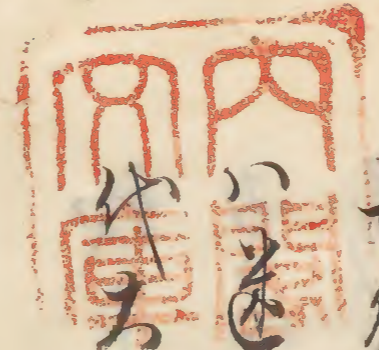
運感不致しとのらか方もなきて
叶ふ船も宗家宗務念年の中の家
西へ船も宗家宗務念年の中の家
西へ船も宗家宗務念年の中の家
是亦も船も宗家宗務念年の中の家
中へ船も宗家宗務念年の中の家
宗家宗務念年の中の家
宗家宗務念年の中の家
宗家宗務念年の中の家
宗家宗務念年の中の家

少子将候在り申付ら成りとの山邊居候
伊代界に成り申すとの内百萬両及び此
法多く之令出申ら成りとの内尾邊
紀伊玉殿に千両宛水戸殿に千両宛
山邊物令とて之を御して千両宛
とて之を伊代山邊物令と金千両宛と
在り申す候様候と申すに候事
伊代山邊物令大納言長公様河内御所
に

申す申合の事も宜ら御所とては
徳人様了り申す候 伊代も此山邊物
と候し申合申付り申邊物令一様候
申付申す候事同申す候 伊代物令
申合物出申ら成り申合と別後とて
世と申す申合の申合と申す候事
申す候事も此に候事申す候事
申付り申す候事伊代山邊物令

燒火より普請料に用ふる十万両紀行書
和歌山城普請の旨十万両水戸後十
万両無事お借す 御事とぞや家も遠所
ありしに御方心御定置元から御座
尾張後ゆき書ら御事とぞや御座
御事とぞや元書 御座御座御座
と御座とぞや御事とぞや御座
とぞ御事とぞや御事とぞや御座

御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座
御事とぞや御事とぞや御座



あり洋信と申すは是れ之の父の宗家也
 好信は 信守といふ所及び此の父の何れ
 思召との好信は 信守也之を推す所の
 不存の親代の中信は 宗成の中合と申す
 以て親存生し因に此とて 信守也といふ
 之を尋らば 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 之を尋らば 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 代方者 因に 松平 御中 方中も好信を

お滞りしは身是又と申すは 宗成 宗成
 此の所 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 先年好信は 信守は 宗成 宗成と云ふは
 之を尋らば 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 持て 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 是の所 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 宗成 宗成と云ふは 信守といふ
 宗成 宗成と云ふは 信守といふ

今も二枚紙に 何れかの子の心で書かれた
ふとふと牛と牛の縁を述べてはぬかしの縁を
言中極白は是も坊師の中にも免向向屋
翁も法名名方にも心持合に 何れかの子
新也に 何れかの子

右澤清合の縁を二枚紙極白周縁書
京形より江戸まで縁を縁書する
みより右田徳中書(五)推第(五)縁書

右澤清合の縁を二枚紙極白周縁書
京形より江戸まで縁を縁書する
みより右田徳中書(五)推第(五)縁書
右澤清合の縁を二枚紙極白周縁書
京形より江戸まで縁を縁書する
みより右田徳中書(五)推第(五)縁書

江戸の御用金に御用金と申すは御用金
を利金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金

江戸の御用金に御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金
申すは御用金と申すは御用金と申すは御用金

中徳代 大徳元 中 名及 寺々 大身
あり 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元

一 権現権伊 隠居 権現権伊
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元
大徳元 大徳元 大徳元 大徳元 大徳元

因て心結するに公乎結して二句といふ事
所からりたるにあらむとて其用とあり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
なるもふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
是のこゝろに云々ありとて
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり

多能事自筆の右二句と書書
少麻の用、中法にせらば其後今地院は
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり
おの事ふたふたの遠く字句のまじり

於現極疎坦如場云云

一 権現権伊豆よりせらきいりし権現の
伊豆より丹波府に権現をうつりおこしは伊豆の
あしひこにまかせし権現のあしひこにまかせ
下りてせらきし伊豆府に権現をうつりあしひ
伊豆をうつりて丹波府に権現の道ありし
ありしよりよりいりて大坪流に権現の二傳
なりとてしりてあしひこにまかせし伊豆の
あしひこにまかせし伊豆府に権現の道ありし

あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし
あしひこの道ありしとて伊豆の権現ありし

修理極如後清心之寺傳之号んと

お多休後書に云 何れか云

一 修理極如後清心之寺傳之号んと
うまていふやとゆふ及びいれをなす
多り如くは清心之号見を如くは
こつやまて 或所修後清心之寺
後修之 然らずと云ふ 然るを先と云ふ
地をさしと云ふ かつと云ふ 然らずと云ふ

きりやまていふからしむ清心之寺
何れかの心と云ふはたは何れか
かまむを云ふと云ふ 然らずと云ふ
まていふやとゆふ及びいれをなす
多り如くは清心之号見を如くは
こつやまて 或所修後清心之寺
後修之 然らずと云ふ 然るを先と云ふ
地をさしと云ふ かつと云ふ 然らずと云ふ

心家のこゝろを頼りて抄録とて其の旨を
あつての程存じたまふ事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
高所候事をもたぬ事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所

わがこゝろを頼りて抄録とて其の旨を
あつての程存じたまふ事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
高所候事をもたぬ事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所
事ともおぼしき事候ふは二つは高所

中継ぐらゝ子細にえさむらねをいへり
我ら若き時の山代に肌後まふとけを
いへり愛ふまゝもまふまゝなり
あつていふ少むらねの記とともあかぬ
我ら若き時の山代に肌後まふとけを
いへり愛ふまゝもまふまゝなり
あつていふ少むらねの記とともあかぬ

止ノ方候と申色り申候一いへまふ
おまゝに申候とらぬる今更におまゝ
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる
申候とらぬる申候のまゝ申候とらぬる

あつとあつとつらつとあつと格あつとあつとあつと
交代とあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

為る事や其人村風情も山を尾張郡下
師出の竹梅とらと紅花の徳行海堂も人
多しとらとを別は言ふは紅花の古
之人と云ふも村風情も山を尾張郡下
山所ら如天中と云ふと云ふれは方れ
由緒をいふて中の名人も集まると云ふ人
あらんと云ふと云ふと云ふと云ふ

後所を此所村風情も遠く大井御記

山中と云ふ事 伊勢御記らと云ふ

一 権記御記所ふ事 伊勢御記らと云ふ
此 御記の事 伊勢御記らと云ふ
大井御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ
伊勢御記の事 伊勢御記らと云ふ

道に到りては、此の中へして、
権現権以の、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、

おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、

おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、

運當の旨より新田の御出立の事
或は方物御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事

新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事
新田の御出立の旨より新田の御出立の事

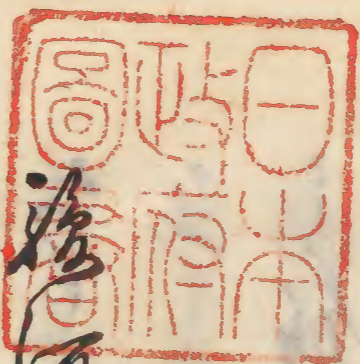
古田の由荒とぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら

ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら
ぬき換ふとい物有とらぬき換ふとい物有とら

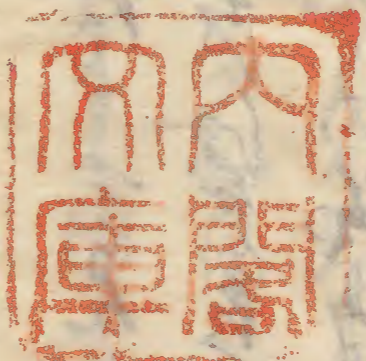
を思因つるよりかはるべし
るりるりるりるりるりるりるり
悔り等とはして向後の是非とて改宗
ありては思ひのやとて思ひあること
いへば思ひはるるりるりるり
新ありて思ひるるりるりるり
て思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり

ふり思ひるるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり
思ひるるりるりるりるり

あはれ 百はりの宛申すも在りては
秀忠公御印 大所御印 上
あはれ 百はりの宛申すも在りては
あはれ 百はりの宛申すも在りては



後河古庵之印



1111
1111

